

IV-370

札幌市における都心循環バス実験について

北海道大学工学研究科 正員 高野伸栄
 秩父学園保護指導職員養成所 学生員 西山小百合
 北海道大学工学研究科 正員 加賀屋誠一

1. はじめに

近年、交通に関わる社会実験は、計画のPR、市民参加の促進、効果の検証等の様々な観点から、注目を集めている。本研究は、平成9年秋に札幌市で行われた都心循環バス実験について、実験の計画及びその結果について述べるものである。

札幌市都心交通対策実行委員会では、都心部に於いて利便性の高い交通手段の確保と、商店街の活性化のため、歩行支援・短距離輸送サービスとして都心循環バス実験運行を実施した。実行委員会が設けた「都心部交通実験プロジェクト推進委員会」の下部組織、都心循環バスワーキンググループでは、利用対象や路線、料金を検討し、制約条件の下で詳細な計画案を策定、平成9年10月下旬の4日間に交通実験を実施した。効果測定として、全利用者のODを記録、アンケート票の配布を行うとともに、モニターを選定し、詳細な調査を行った。

表1 実験の概要

運行期間・時間帯： 平成9年10月18日（土）、19日（日）、25日（土）、26日（日）、9時30分～18時、10分間隔で運行
運行主体： 札幌市交通局
路線概要： テレビ塔回り線・道庁回り線の2系統 ：延長3.0km、13停留所、所要時間20分
車両： 中型低床バス（定員60名）、1系統2台×2
料金： 大人100円、子供50円
効果測定： OD調査（全利用者）、利用者アンケート調査（車内で配布、郵送により回収）、モニター参加調査（試乗後アンケートを郵送により回収）
PR： 市長記者会見、広報誌、ポスター・リーフレット（公共交通機関、公共施設内で掲示・配布）、テレビ・ラジオの広報番組、ミニFM、報道機関への情報提供、狸小路商店街での前売乗車券事前配布

2. 実験結果

(1) 運行結果の概要

4日間計で3,577人の利用があり、OD調査の結

果（図1）、札幌駅前を起終点とするトリップが大半を占め、買物客には回遊性が見られた。また、定時性の乱れ（図2）の原因である交通渋滞は、特に路上駐車によって引き起こされ、テレビ塔回り線においては交差点での右折の影響が大きかった。

表2 路線別利用実績

	道庁回	テレビ塔回	合計
運行本数（本）	191	172	363
利用者数（人）	1,383	2,194	3,577
人／本	7.2	12.8	9.9
運行時間（分）	平均 19 最長 38	平均 22 最長 41	平均 20 最長 —

(2) 利用者アンケート結果

全利用者を対象としたアンケート（郵送回収）の回収率は45.2%という高いものであった。

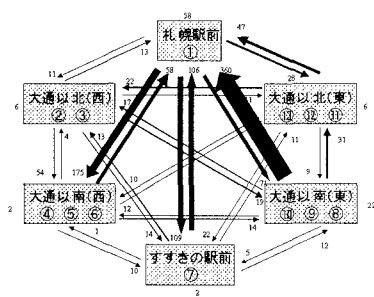
都心にきた目的としては、運行が土・日のみであったため、買物が71.5%を占めた。また、都心までは1.31人に1人が何らかの公共交通を利用しており、循環バスを地下鉄やバスの代替交通手段とした人が約5割だった。OD調査からも明らかなように、札幌駅前と大通周辺間の移動に、地下鉄は上下の移動が不便で料金が高く、歩くには距離が長いいため、循環バスに転換した人が多く、特に高齢者にとって利便性が高かった（図5）。

実験については事前に知っていた利用者がほとんどで、うち4割がマスメディアによって実験を知った。料金（100円）は、多くに割安感を与えた。路線は変更すべきとした場合、JR札幌駅への乗換をしやすくすることをあげたものが多かった（表3）。

また、自由回答欄を設けたところ、67.2%の記入があり、「非常に便利だった、今後も継続的に運行して欲しい」、「定時性が確保されていない、走行環境改善を」、「路線やバス停の位置がわかりづらい」という意見が目立った。

キーワード：交通実験、循環バス、市民参加

〒060-8628 札幌市北区北13条西8丁目 TEL011-706-6213、FAX726-2296、E-mail shey@eng.hokudai.ac.jp



道庁回り線

テレビ塔回り線

図1 O-D流動図（図中の数字は4日間合計の利用者数）

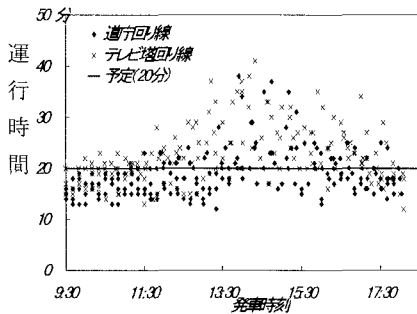


図2 発車時刻別運行時間分布

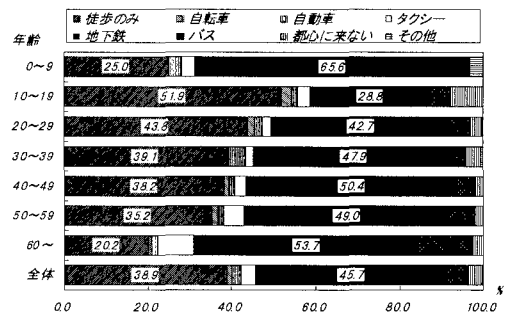


図5 都心循環バスがなかった場合の交通手段

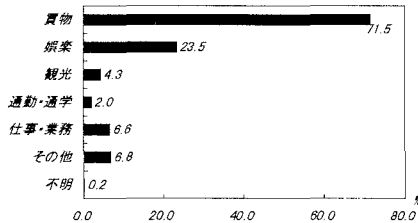


図3 都心に来た目的

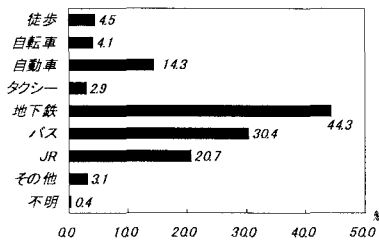


図4 都心に来るまでの交通手段

3. おわりに

交通実験という手法を用いたことによる成果は、以下の3点である。

表3 実験内容に関する利用者意識

認知状況 (%)				
知っていた	当日知った	不明		
84.4	10.0	5.6		
料金 (%)				
安い	妥当	高い	その他	不明
25.8	68.9	2.6	1.9	0.8
路線 (%)				
良い	変更すべき	不明		
87.6	10.0	2.4		

- ① マスコミの積極的な報道により、市民が実験を認知すると同時に利用が促進され、多くの市民が利用し、市民の都心交通問題への関心を高めた。
- ② 全利用者の45%から意見を収集し、利用者意識についてのデータを収集した。
- ③ 休日の交通実態や需要を直接的に把握した。

また循環バスの機能としては、以下の2点を明らかにできた。

- ① 都心循環バスは買物客が都心を回遊する機会を増す手段となる可能性がある。
- ② 地下鉄や徒歩からの転換が多く、特に高齢者にとって利便性の高い交通手段である。